

寄稿 台湾・交通部長 賀陳 旦

台湾の国際民間航空機関参加に支持を

台湾は国際安全基準と一致するために、国際民間航空機関（ICAO）への参加を積極的に推進しており、長年にわたり世界各国とともに力を合わせて世界の航空輸送サービスおよび経済水準の向上に取り組んでいる。台湾の参加は国際民間航空により一層緊密な協力和発展をもたらし、ICAOが追求する世界の切れ目のない飛行安全の目標に寄与するものと確信している。

台湾は東アジアの空運の最も混雑する地域に位置しており、

国際空港評議会（ACI）が発表した2015年のデータによると、台湾桃園国際空港の国際旅客数は世界11位、国際貨物輸送量は世界6位であり、東アジアで最も混雑している国際空港の一つである。15年には74社の航空会社が台湾で営業しており、301路線の定期旅客路線および貨物路線を運航し、世界135都市を結んでいる。

台湾が管轄する「台北飛行情報区」では、15年に延べ約153万機に航空管制サービス、ならびに延べ5800万人を超える旅客

サービスを提供し、世界の航空輸送ネットワークの一環として不可欠となっている。

40年余りにわたり、台湾の民間航空管轄機関は、情報取得、経費、運営のいずれも、各国よりも多くの努力とコストを投じ、ICAOが求める飛行安全および航空保安の標準に一致するよう取り組んできた。

ICAOが注視する飛行安全、飛行サービス、航空保安、環境保護、航空経済などの各種テーマは、直面している多面的な課題に対処するため、いずれも世

界各国が共に緊密に協力していかなければならない。台湾がICAOに参加する必要性はここにある。

長年にわたる欧米および台湾に友好的な国々の賛同と支持により、台湾は13年にようやく第38回ICAO総会に招かれ参加することができた。



賀陳旦（がちん・たん）氏 1973年、中興大学土木工学科卒業後、米國バージニア州立大学都市計画研究所に学ぶ。台北市交通局長、中華電信会長、台北大衆捷運（台北メトロ）会長などを経て現職。

台湾は再び、ICAOの会議、メカニズム、関連活動に専門的かつ貢献できる参加を望んでいる。国際社会の一員として、我々は地域および世界の航空安全を保障していく責務があり、世界の民間航空の発展および人類の福祉のために力を発揮したい。

台湾は各国と民間航空産業の発展の経験と専門知識を分かち合うことを惜しまず、安全かつ秩序があり、持続可能な国際民間航空の発展を共に追求していきたい。